

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	史 兆紅
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 中国人学習者の日本語受身文の誤用研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	佐藤 利行	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	高永 茂	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	今林 修	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	関西学院大学・教授	于 康	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、中国人の日本語学習者にとって非常に習得が難しいとされる受身文について、その誤用の実態と原因を考察したものである。論文は、第一章「序論」、第二章「受身助動詞の誤用による日本語受身文の誤用」、第三章「受身動詞の使用による日本語受身文の誤用」、第四章「受身構造に関する日本語受身文の誤用」、第五章「結論」の全五章から構成されている。</p> <p>第一章では、本研究の動機・目的を論じ、中国と日本における先行研究について詳細に分析した上で、「誤用」の定義付けを行い、本研究の意義と研究の方法について述べる。</p> <p>第二章では、受身助動詞の誤用による日本語受身文の誤用について、「れる・られる」の不使用と過剰使用の分布状況を七段階の学習歴（3ヶ月～1年未満，1年以上から各年毎に7年未満，7年以上11年まで）別に詳細に分析する。こうして得られたデータを更に志波（2012）の「四つのテキストにおける受身文タイプの分布」と比較することによって、中国人日本語学習者の受身文の誤用の特徴を考察している。</p> <p>第三章では、受身動詞の使用による日本語受身文の誤用について、「欠用・非用・贅用・謬用」という筆者独自のカテゴリーによって、中国人の日本語学習者の誤用例を、助動詞の誤用の場合と同様に学習歴別に丹念に分析している。更に、受身文における動詞の誤用について、自他無対、自他対応、自他同形の動詞を分析し、和語にのみ存在する自他対応動詞の誤用が大きな問題であると指摘する。</p> <p>第四章では、受身構造に関する日本語受身文の誤用について、述語・修飾節の誤用、テンス・アスペクトの誤用などについて、多角的な分析を試みている。</p> <p>第五章では、本論文の成果を整理し、中国における日本語教育に果たす本研究の役割、また本研究の過程で明らかになった問題点や課題について述べる。</p> <p>以上のように、本論文は関西学院大学の于康教授から提供された「YUKタグ付き中国語話者日本語学習者作文コーパス」Ver.3から抽出した日本語受身誤用文に関する膨大なデータを元に、受身文習得における特徴を分析し、中国人日本語学習者の受身文の誤用の特徴を解明した点で、高く評価できる。母語干渉の問題や誤用文の分析などについて若干の課題は残るが、中国の高等教育機関での日本語教師として二十年に及ぶ経験を有する筆者が、この論文で得られた知見を実際の日本語教育の場に如何に活用できるかという点でも、今後の発展的研究が期待される。</p>			
以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。			

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)